

1強多弱 亡き指南役は何思う

薩摩の空は晴れ渡っていた。

昨年10月10日、鹿児島市。武村正義元官房長官(79)は墓前に手を合わせた。「不肖の弟子は、まだ頑張っています」。胸の中には「1強多弱」の現在の政界へのじくじたる思いが去来していた。

再編の出発点

墓に眠るのは「歴代宰相の指南役」と呼ばれ、2004年に96歳で他界した四元義隆氏。吉田茂、佐藤栄作、中曽根康弘各氏ら多くの首相と親交を深めて進言を続け、「非利権石炭の大物」とも言われた人物だ。

戦前に血闘団事件に連座して逮捕されたが、その後、ポツダム宣言を受諾した鈴木真太郎首相の秘書となり、戦争終結に抵抗する陸軍の反乱部隊から首相の身を守ったとされる。武村氏は料亭で四元氏を見送る

中曽根氏が、車が見えなくなるまで頭を下げ続けた姿を鮮明に覚えてい

る。 自民党の歴代首相が、それほど敬意を払った四元氏がある時、自民党議員だった武村氏と熊本県知事だった細川護国院氏に聞いた。「自民党一党支配はダメだ。けん制になる新しい政党をつくる必要がある」。1988年のリクルート事件による金権腐敗で、政界が揺れていたころだ。

その指南は「政界再編の出発点」(武村氏)になり、のちに武村氏が新党さきがけ、細川氏が日本新党を結成。93年、38年続いた自民党政権は倒れ、「非自民」勢力による細川連立政権が誕生した。「政権を奪わ



故四元義隆氏

過去の主な政権の動き

1993年	衆院選で自民党が敗北。社会党、新生党、公明党、日本新党、新党さきがけなど非自民7党1会派が細川政権を樹立
94年	自民党が社会党、さきがけと連立し、政権復帰。村山政権が発足
99年	自民、自由、公明の3党連立政権に
2000年	自由党が離脱し、自民、公明、保守の連立体制に
03年	自民、公明の連立政権に
09年	衆院選で民主党が勝利し、政権奪取。社民党、国民新党と連立し、鳩山政権が発足
10年	社民党が連立を離脱
12年	衆院選で自公両党が政権を奪還し、第2次安倍内閣が発足

加藤団事件 1932年(昭和7年)、農村の窮乏や支配階級の腐敗を批判し、国家改造を唱えた若者たちが、井上準之助前蔵相ら政財界の要人を暗殺した政治テロ事件。その後の五・一五事件、二・二六事件の遠因にもなった。

れるかもしれないという緊迫感を生む勢力がなければ、日本の政治が沈むという焦りが四元氏にあった。

門下生の一人、民主党の荒井聡衆院議員は振り返る。

しかし、非自民政権は1年足らずで倒れ、自民党は社会党などとの連

立で政権復帰。09年には民主党が政権交代を果たしたが、自民党は3年

安倍晋三首相は、衆参両院での「数

の力」と高い内閣支持率を背景に、

歴代政権が禁じてきた集団的自衛権の行使容認に向けて、ひた走る。

追及に二の足

2月下旬、首相が憲法の解釈変更について「私が最高責任者だ」と答

弁した直後、民主党幹部会で徹底追

及を呼びかけた大島章宏幹事長に「待った」がかかった。民主党政権時代の官房長官が「内閣が責任を持った憲法解釈論を国民に提示する」

と発言していたからだ。「返り血を浴びるだけだ」との言葉に幹部たちは押し黙った。首相が「責任野党」と秋波を送る日本維新の会やみんなの党は、政府との協同路線に軸足を置く。永田町に「緊迫感」をもたらす野党勢力はいない。

四元氏は生前、戦争に突き進んだ当時の日本を「やむを得ない、やむを得ない」といふことで事態はどんどん悪くなっていった」と弟子に語ったという。そこには、軍部の暴走を止めることができなかったことへの警告と自責の念が込められている。

「国益のため」「時代の変化に対応するため」「日米同盟強化のため」。今もまた「やむを得ない」と、戦後の日本の針路が大きく変えられようとしている。だが、政権の対抗勢力が現れる気配はない。鹿児島に眠る指南役が存命なら、何を語るだろうか。(平畑功一)

「緊迫感」生む野党見えぬ

二ユー・スを

掘る